

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 7 年度第 1 回 富士見市生涯学習推進市民懇談会 議事録</p>						
日 時	令和 7 年 6 月 2 4 日 (火)		開会	午後 3 時 0 0 分		
			閉会	午後 4 時 3 5 分		
場 所	富士見市立中央図書館 2 階 集会室					
出 席 者	参加者	出井(隆)氏	新井氏	木原氏	佐々木座長	田屋氏
		欠	○	○	○	○
		出井(あ)氏	山崎氏	深瀬氏	小谷氏	森本氏
		欠	○	○	欠	○
	事務局	生涯学習課 課長、主任				
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者 なし)					
議 題	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 内 容</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 令和 6 年度富士見市生涯学習推進アクションプランの進捗状況評価</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 令和 7 年度富士見市生涯学習推進アクションプランについて</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) 第 4 次富士見市生涯学習推進基本計画の骨子案について</p> <p>4 そ の 他</p> <p style="margin-left: 20px;">・ 次回開催について</p> <p>5 閉 会</p>					

議 事 内 容

1 開 会

開会にあたり、生涯学習課長からあいさつを行った。

2 あいさつ

佐々木座長からあいさつを行った。

3 内 容

(1) 令和6年度富士見市生涯学習推進アクションプランの進捗状況評価

事務局より説明を行った。協議内容は以下の通り。

参加者

C評価（実施方法の見直し検討）が一つもないのでは、アクションプランを実施する意味がないし、評価が甘いのではないか。

事務局

担当課ごとに、事業に対する反省点・見直す点はあると思うが、アクションプランは詳細な反省点などを反映しづらい設計であった。その点で、反省がある。

参加者

評価基準を明確に提示し、分析してほしい。

事務局

承知した。

参加者

担当課評価について、結果ありきになっているのではないか。来年度は予算がつかなければC、その他はAまたはBという判断になっているように思う。また、事業目標に数値目標が載っているのに、事業実施結果に数値が載っていない事業がある。

アクションプランは、各担当課が、各事業をどのように評価しているのか知ることができる、という点では役に立つと思う。しかし、各担当課が何をもってその評価をつけたのかが分かりづらい。

事務局

昨年度、参加者から意見をいただき、「前年度の評価」欄を追加した。今年度は前年度との比較が1つの基準となっている。

一方、数値目標を決めるのが難しい事業もあり、そのような事業の評価方法については課題がある。

参加者

前年度から評価が下がった事業について、理由・課題が書かれていない事業がある。

事務局

結果や課題を市民に分かりやすく明記するよう、担当課に周知していく。

座 長

担当課の評価コメントが重要だと思う。課題を次年度どのように活かすかは大事である。

参加者

3ページ目「ふるさと祭り推進事業」について。出展料の値上がりが著しい。自身が所属する団体は、会員同士で楽しむことを趣旨としている

	<p>ため、多少の赤字はやむを得ないと考えているが、これだけ値上がりしていると継続が難しくなるかもしれない。今後も各団体が参加できるよう、対策を考える必要があるのではないか。</p>
事務局	<p>担当課評価コメントにもあるように、担当課としても事業費が膨らんでいる点は課題としている。今回は数値目標としていた来場者数 40,000 人を達成したため A 評価がついているが、今回いただいた意見は担当課へ報告する。</p>
参加者	<p>3 ページ目「市民参加・協働推進事業」について、自身が所属している団体も当事業を通して市に提案をし、補助金を受け取っているが、新規提案はあるのか。</p>
事務局	<p>担当課評価コメントに「新規提案自体はない年度もあるため、さらなる周知が必要」とあり、担当課としては課題と感じているようである。</p>
参加者	<p>3 ページ目「出前講座」について。講座メニューについて担当課と話し合いはできるのか。もしくは、希望をすれば受けてくれるのか。</p>
事務局	<p>毎年、担当課から、市民から要望があれば担当課に声をかけてほしいという周知がある。また、メニュー一覧に掲載がない場合であっても、希望する内容があれば担当課と協議の上、リクエスト講座として実施が可能である。</p>
参加者	<p>アクションプランに掲載はないが、中学生の学校時間外のスポーツ活動について、管轄は学校教育課になるのか。</p>
事務局	<p>文化・スポーツ振興課が担当である。生涯学習推進計画に掲載がない理由は、スポーツ振興計画があるためである。また、部活動の地域移行については、学校教育課と文化・スポーツ振興課が協議をしている段階である。</p>
参加者	<p>事業ごとに事業目標や事業実施結果の記載方法にバラつきがある。事業ごとに数値目標を決め、それに紐づいた事業実施結果を記載する形で統一すべきである。</p> <p>また、A、B 評価ばかりで C 評価がなく、次年度以降も、事業や評価がそのままスライドされることが想像できる。トライアンドエラーで、事業実施結果や担当者評価を鑑みて事業の見直しをしたり、チャレンジとして新規で事業を追加したりすることはしないのか。</p>
事務局	<p>令和 7 年度アクションプランでは、令和 6 年度アクションプランから事業が 2 つ増え、事業が 1 つ減る。減る事業は「フリースペース西っ子」である。事業の再開を目指していたが、鶴瀬西交流センターが改修に向け休館となるため一旦アクションプランからは外すこととなった。新規に追加する 2 つの事業については次の議題で話をする。</p>

	(2) 令和7年度富士見市生涯学習推進アクションプランについて事務局より説明を行った。協議内容は以下の通り。
事務局	新規事業は、南畑公民館の「Craft Night Garden2025」、水子貝塚資料館「縄文の森観察会」である。また、先ほど話があった「フリースペース西っ子」が減り、令和7年度富士見市生涯学習推進アクションプランの掲載事業は合わせて164である。
参加者	令和7年度のアクションプランについても、令和6年度同様サマリー(一覧表)が一枚ほしい。また、サマリー(一覧表)についている番号を、アクションプランにもつけてほしい。
参加者	配布資料のデータもほしい。
事務局	承知した。
参加者	数値目標の記載がない事業は、設定が難しいということか。
事務局	数値目標の記載はこれまでの5年間で徐々に増えてはいるが、「〇〇の支援」など、受け手側がいる事業については数値目標を設定するのが難しい。
参加者	数値目標を設定できない場合でも、何をもって評価するかは明記したほうが良い。
事務局	承知した。
参加者	定量的評価だけでなく、定性的評価があっても良いのではないか。例えば、参加者アンケートに記載されている参加者のコメントや意見をもとに評価をするなど。たとえ参加者が少ない場合であっても、意味のあるイベントだったかどうかはそういった点から判断できると思う。
事務局	例えば、令和6年度のアクションプラン内、コスモス街道づくりについて、数値目標である客数9000人は達成できなかったが、担当課評価コメントに記載があるように、「水谷小学校区まちづくり協議会だけではなく、本郷中学校の生徒にも協力していただけた」点を評価に反映させた。今後のアクションプランは他事業についても数値目標だけではなく、担当課評価コメント欄の内容を踏まえた評価を行うようにする。
参加者	コスモス街道づくりについて、例えば志木市でも同じような事業を行っている。他自治体との連携をやってみてもよいのではないか。
事務局	是非他にもそういったご意見をいただきたい。
参加者	コスモス街道の予算が0円になっている。ボランティアの方にお茶を配っていたと思うが、そのお金はどこから出ているのか。
事務局	おそらくまちづくり協議会から出ている。

参加者	自身の所属しているコミュニティ大学は、自主財源で活動しており、また、事務局は高齢者福祉課である。広い意味では福祉なのかもしれないが、正に生涯学習活動を行っている団体だと思うので、本来は生涯学習課が事務局であり、且つ、予算をつけるべきなのではないか。
座 長	それは団体の所管を変えてほしいという意見か。
参加者	そこまではっきりとした要望ではないが、高齢者福祉課が目指すものとコミュニティ大学が目指すものは異質だと考える。コミュニティ大学の受講者は年間 5500 円払って参加している。それだけ熱意がある。一方で、同じ施設で活動をしている老人クラブ連合会はそれなりに補助金をもらっているようで、待遇の違いに違和感がある。
座 長	他に意見がなければ次の議題にうつる。 (3) 第4次富士見市生涯学習推進基本計画の骨子案について事務局より説明を行った。協議内容は以下の通り。
参加者	基本施策の「新たな人材の発掘」というのは、活動する人を指すのか、それともファシリテーターか。
事務局	活動・参加する人をイメージしていた。
参加者	「発掘する」というのは「探す」というイメージがある。ファシリテーターを発掘するというのは分かるが、活動・参加する人を発掘するというのはどのようなイメージか。
事務局	2つある。1つは、市民人材バンク制度など、技能を持っている人材や、公民館の子育てサロンサポーターなど、生涯学習活動を中心になって行える人材の発掘を想定している。発掘のみではなく、人材の育成も含めた内容にしたいと考えている。 もう1つは、大きな課題である生涯学習活動への参加者の高齢化・固定化の解決に向け、新しい人材に気軽に参加してもらえるような施策を検討したい。こちらは「市民間交流の促進」にも関わるため、どのように記載するかは検討する。
参加者	公民館運営審議会では「若い世代や世代間交流の取組」を今年の協議テーマとしている。指導者が高齢化し、車で公民館まで来られず、指導者の後継者もいないためサークルが廃止になってしまうという事案が起こっていて、まさに、若い世代の取り込みが課題であると実感している。イベントをやると、客として来るだけで交流につながらない。そういった課題の解決に繋がられるよう、Craft Night Garden2025を企画した。飲食をしながらテーブルを囲んで交流ができる場にしたい。今、南畑地区は、小学生が増えている。つまり、若い世代が増えているということである。そういった人たちが地域に参加できるよう、南畑地域ではイベントの見直しをしている。他の地域も、模索中と聞いている。

事務局	行政として、今ある事業で手一杯で、新しい事業に取り組めないという課題がある。南畑公民館の新しい取組みは、他課・施設にとっても良いヒントになると考える。
参加者	施策体系について。若い世代の中には、本当は働き盛りだが、外面的には社会とつながっているように見えても、社会から疎外されている人が増えている。心理的な疎外感を感じている人や、実際にひきこもっている人たちとの共生を考えると、基本施策の「ライフステージに合わせた学習機会の充実」「相談体制の充実・推進体制の充実」は非常に重要だと考えている。社会で活躍しようとしている若い世代の人たちが豊かな生活を送れるよう支援することを考えると、第4次計画の目標「自由な学びにより生きがいができる」という表現は、高齢者向けのように感じる。生きがいができることが目標ではなく、生きがいを持てるように支援することが生涯教育ではないかと思う。生きがいができることを目的とすることには違和感がある。
事務局	第4次計画の目標の文言は、富士見市の総合計画である、富士見市第6次基本構想第2期基本計画に合わせている。また、「自由な学びにより生きがいができる」というのは生涯学習の大きな目標であり、その目標を達成するための施策として、生活を豊かにしたい人や、疎外感を感じている人への支援があると認識している。
参加者	生きがいができるという表現は、今生きがいがないようにも受け取れる。学生も社会人も、日々何らかの形で活動をしていると思う。それらの活動を、社会とつながりを持てる活動となるよう支援するのが生涯学習ではないか。
参加者	参加者の話を聞いて思ったことがある。Craft Night Garden2025のような、知らない人と話す機会の創出はとても大事だと考える。閉塞感を感じてしまう要因は、地域で生活をしていて、周囲に人も住んでいるのに触れ合う機会がないような雰囲気が漂っているからではないだろうか。それを打破するしくみがあると良い。「生涯学習」の「学習」とは「気づき」であると考えている。例えば、誰かと話をしている「そういう視点があるのか」と気づくことがあると思う。だれでも来ていいような、敷居の低い場があり、そこで気づきを得る、そうした機会を作ることが今の時代の社会教育には必要なのではないか。
事務局	今いただいた意見は、基本目標③の基本施策「市民間交流の促進」に一番近いかと思う。事務局としても、現代の生涯学習において非常に重要だと考えているため、重点施策としたい。他にも「市民間交流の促進」の施策に取り入れた方が良い内容があれば是非提案をしてほしい。
参加者	富士見市は人口が11万人程度で、自治体としての規模はそれほど大きくはない。一方で、例えば自治体として規模が大きいさいたま市では、市内での活動一つとっても、様々な地域から人が来るのでお互いに刺激合いながら行っている。富士見市においても、例えばコスモス街道づくりは、富士見市だけではなく、隣の志木市でも似たような活動をしているため、近隣の自治体と合同で行えば、人の交流にもつながるし、他自

	治体の取り組み内容を参考するなど、活動のマンネリ化を防ぐこともできるのではないか。
参加者	第4次計画の目標「自由な学びにより生きがいができる」について、「生きにくさ」を感じている人たちに「生きがい」を求めるのは酷なように感じる。そういった人たちが「自由な学びにより生きがいができる」を目にしたら、自分には関係ないと余計に疎外感を感じてしまわないだろうか。そういった人たちが目にしたときに「いいな」と感じるような表現にできたらよいと思う。
参加者	再検討してほしいという要望は出せるのか。
事務局	今回いただいた意見を踏まえて検討し、反映できるものについては反映する。
座長	他に意見はあるか。
参加者	生きにくさを感じている人は、場があってもその場に行かない。先日の議会でフィルムコミッションをもう少しきちんとやった方がよいという話があった。富士見市は、都心から近いが自然もあり、ドラマ向き。聖地巡りをする若者もいる。そういった若い人たちと、市内の歴史の案内をするような人たちが交流するというのも良いのではないかと思った。
参加者	せっかく市民学芸員がいるので、もっと活動範囲を拡充しても良いと思う。
参加者	仕掛けづくりについて、基本施策に入れ込むと良いと思う。市民がアイデアを練り、行政の協力を得ながら交流の促進を図るための組織作りができるが良い。
参加者	自身が所属している団体では、小学生を対象に一昨年は国旗について、昨年は古代エジプトについての講義を行った。今年は福井県立恐竜博物館の主任研究員を講師に、恐竜の講義を行う。市内全小学校に周知をした。しかし、こうした活動をしているというアピールがいまいちできていない。市内の各生涯学習関連団体が、うまくアピールができると、他団体の刺激にもなり市内の生涯学習活動が活性化するのでは。
事務局	今の話は基本目標①多様な学習活動への支援、②地域資源を活かした生涯学習の推進にあたるかと思う。 本日いただいた意見を参考に、計画を練っていく。
	<p>4 その他</p> <p>(1) 次回開催について 事務局より今後の予定について説明を行った。 意見、質疑なし</p>
	<p>5 閉会</p>